

[経営者向け]

DX・生成AIに

関するアンケート調査

2025年11月7日

焼津市スマートシティ協議会

地域デジタル活用支援ワーキンググループ

【目次】

- 01 属性
- 02 所在地
- 03 業種
- 04 従業員数
- 05 **D X**という言葉を知っていますか？
- 06 **D X**に対して貴社の取り組み状況を教えてください
- 07 既に導入している**D X**について教えてください
- 08 **デジタル化**に関する貴社の課題を教えてください
- 09 今後、導入したいと考える**D X**はどのようなものですか？
- 10 **生成A I**を活用していますか？
- 11 どのような**生成A I**ツールを利用していますか？
- 12 **生成A I**をどの分野で活用していますか？または活用したいと考えていますか？
- 13 **生成A I**を活用することで期待する効果やメリットは何ですか
- 14 **生成A I**導入にあたって感じている課題や障壁は何がありますか？
- 15 **I T**戦略ナビwithを知っていますか？
- 16 **D X**を進めるために必要な支援についてお答えください

※本資料では集計結果から重要な項目のみを抜粋して記載しています。

..... [アンケート概要]

回答方法 アンケート用紙、Web回答

調査期間 令和7年7月1日から令和7年9月18日

回答数 148社（うち焼津市内企業130社）

周知方法 市公式LINE、焼津商工会会報、焼津商工会HP、
しずおか焼津信用金庫による声掛け、（株）サンロフトメルマガ 等

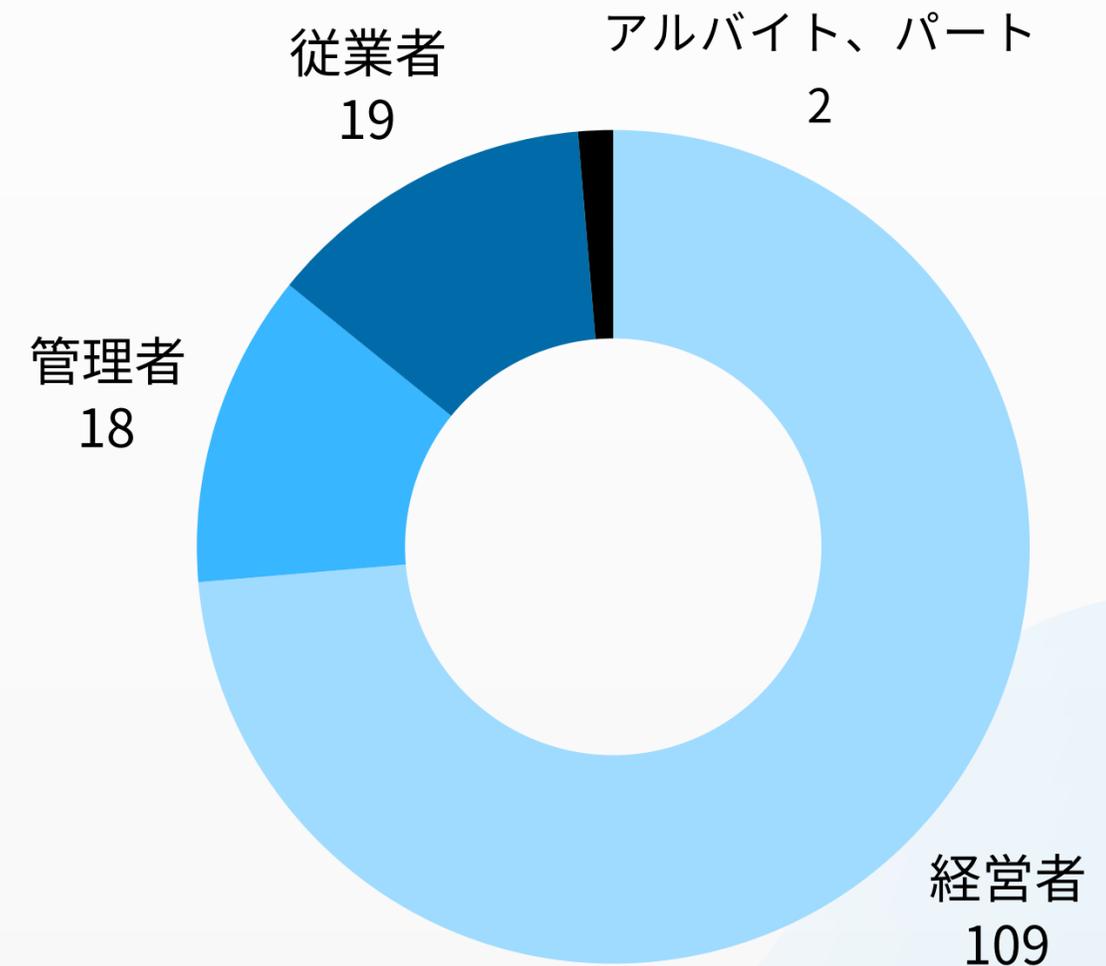
[1.属性]

回答者の属性についてご回答ください

回答率は経営者が74%を占める

本アンケートは経営者向けに実施したもので、回答の74%を経営者が占めています。

この経営者を中心とした回答構成は、地域全体のDX推進に向けた施策を検討する上で、意思決定者層に対する効果的なアプローチを考案する際の重要な基礎資料となると考えられます。



(回答企業148社)

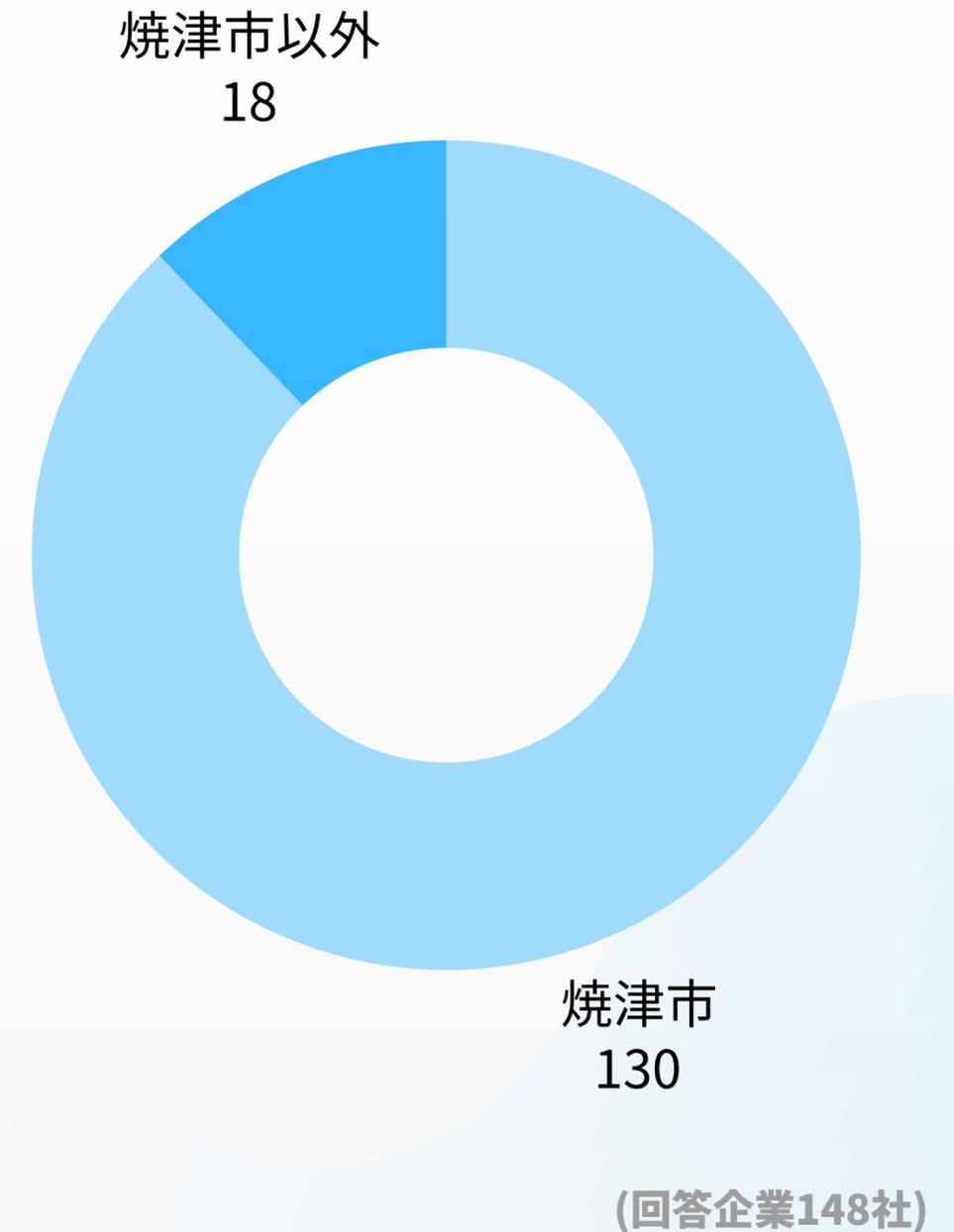
[2.所在地]

貴社の所在地についてご回答ください

回答率は焼津市内の企業が約9割

焼津市内の企業が回答の88%を占めていることから、本調査は地域企業の実態を反映していると考えられます。

このデータは、焼津市内の企業に向けたDX・生成AI支援策を策定する上で貴重な基礎資料となり、地域特性や課題を踏まえた効果的な施策展開に役立てることが期待されます。



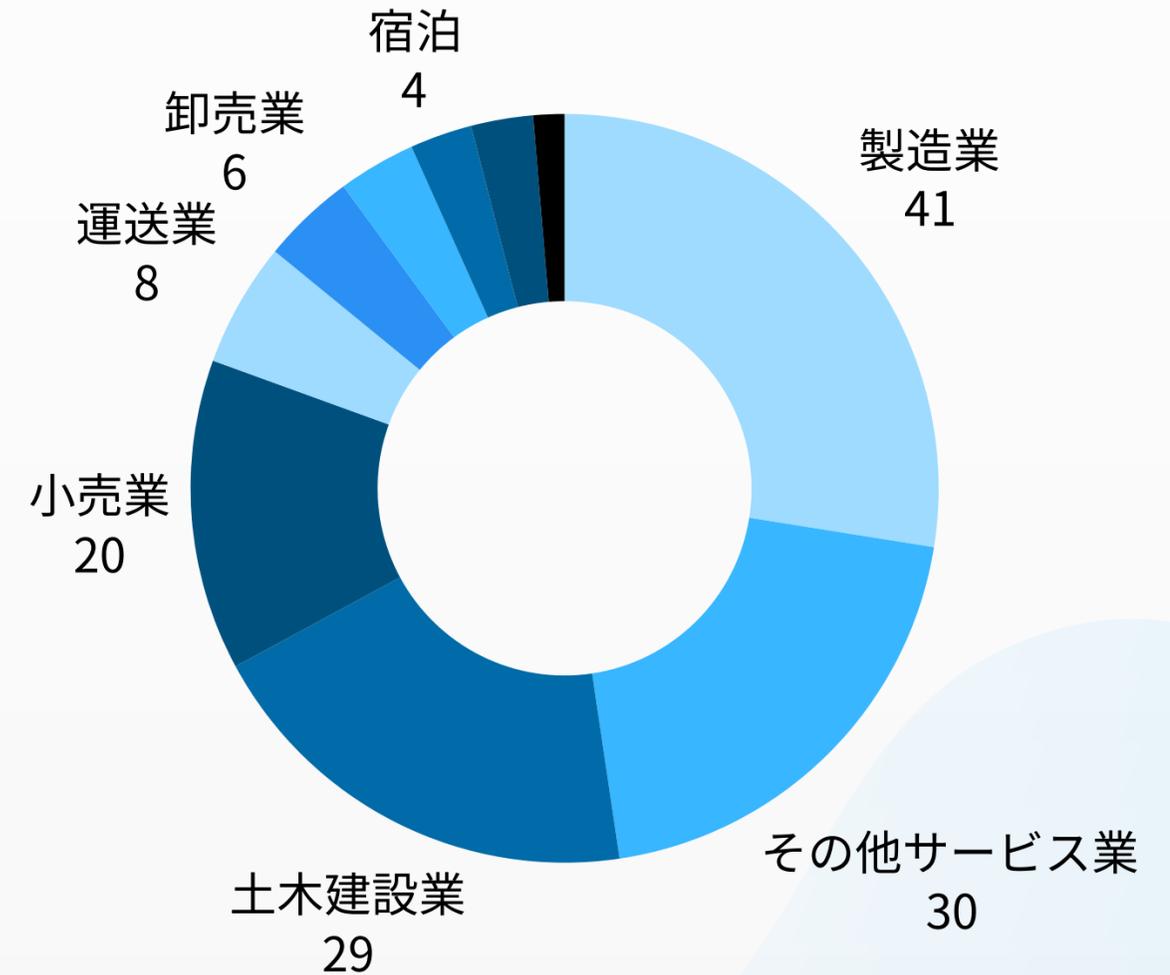
[3.業種]

貴社の業種についてご回答ください

製造業・サービス業・建設業が中心

焼津市の中核産業である水産関連企業を含む製造業(41社)と、漁港整備等に関連する土木建設業(29社)の回答数の多さが特徴的です。

この結果は、地域産業のデジタル化推進における同業種の重要性を示唆しています。その他サービス業や小売業の関心も高く、多様な業種への支援が求められます。



(回答企業148社)

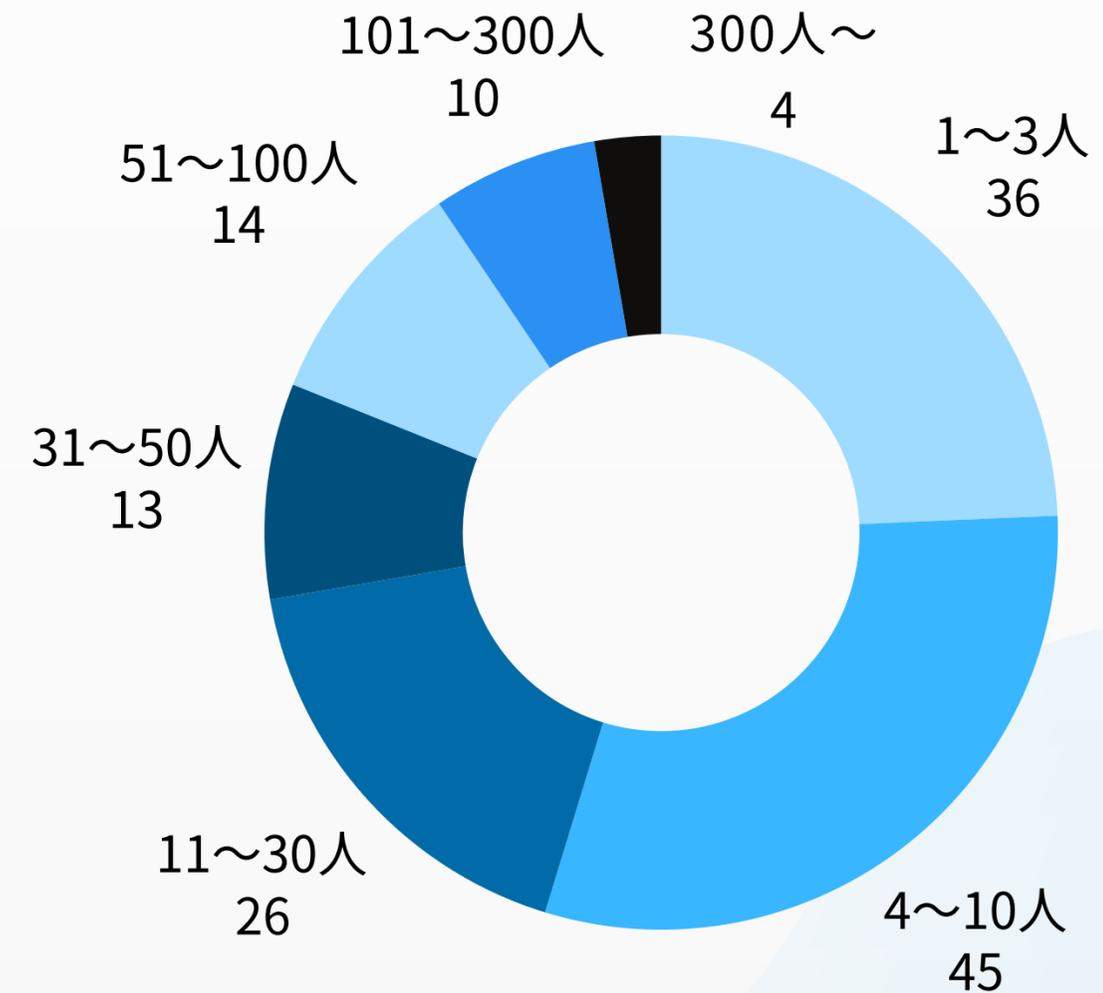
[4.従業員数]

貴社の従業員数についてご回答ください

小規模事業者が過半数を超える

従業員規模別に見ると、1～10名の小規模企業が81社と、回答の過半数を占めています。

DX・生成AI導入支援にあたっては、小規模企業の限られたリソースやITスキルを考慮したきめ細やかなサポート体制の構築が重要となります。



(回答企業148社)

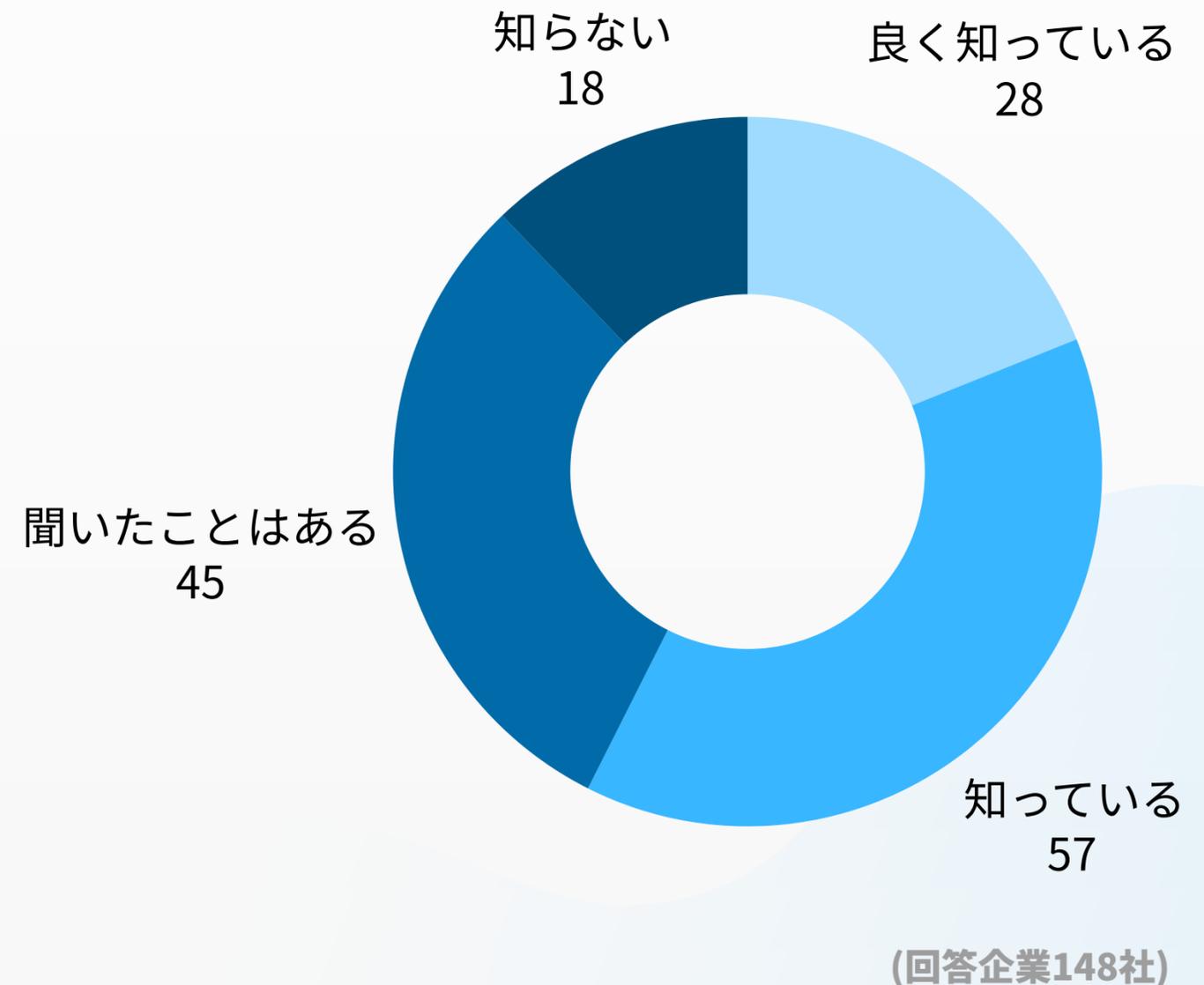
[5.DXとは]

DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉を知っていますか？

DX認知度は高いが、理解促進は必要

DXという言葉の認知度は高く、「良く知っている」「知っている」企業は全体の半数以上(85社)に上ります。しかし、「聞いたことはある」が45社存在し、理解と実践には課題があると考えられます。

DX推進には、概念の周知だけでなく、具体的な事例紹介や導入支援が重要です。



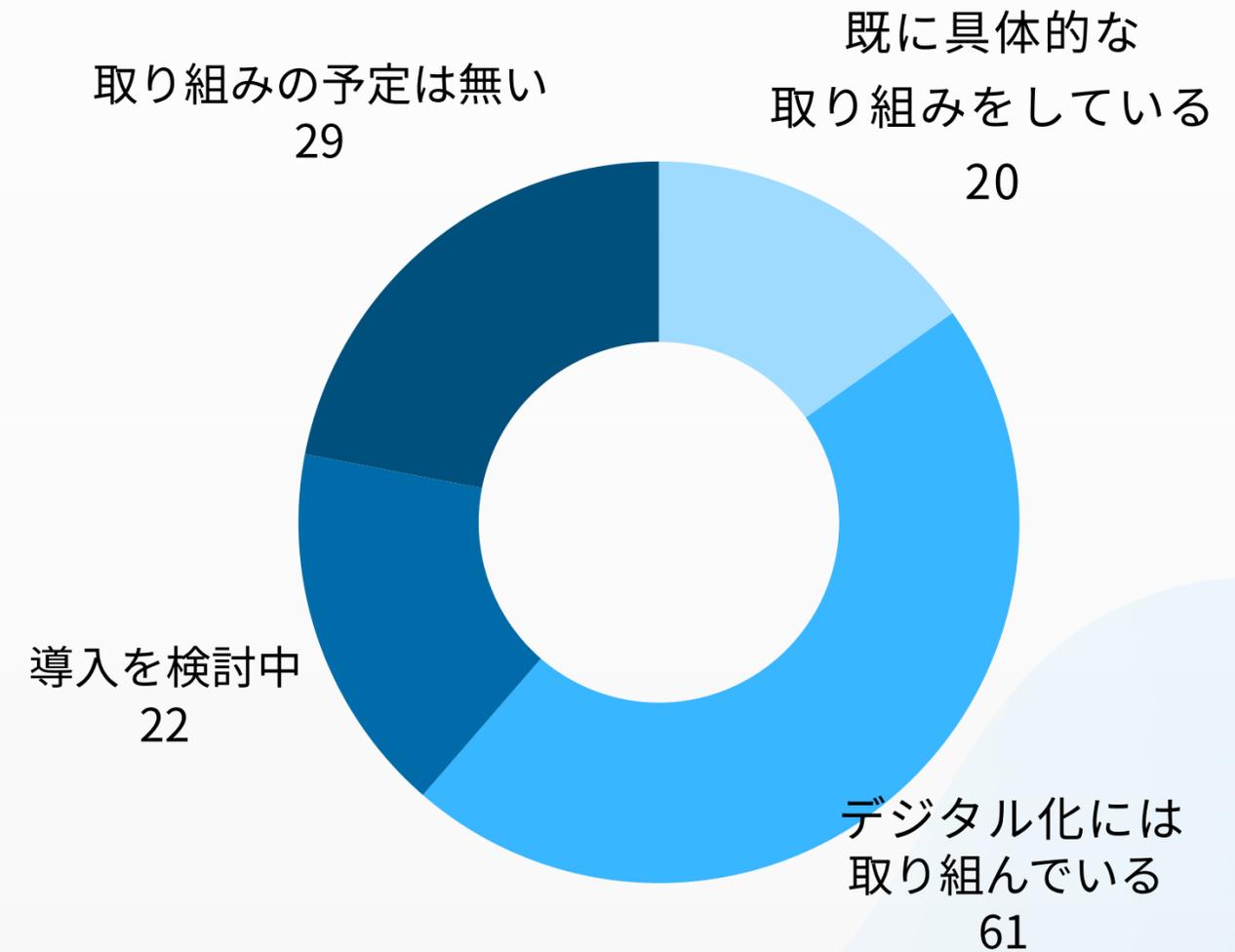
[6.DXの取り組み状況]

DX（デジタル化を含む）に対して
貴社の取り組み状況を教えてください

DX推進に意欲的、支援で加速を

「既に具体的な取り組みをしている」「デジタル化には取り組んでいる」企業は計81社と過半数を超えており、DX推進の機運が高まっていることが分かります。

しかし、多くの企業ではデジタル化の途上にあるといえます。より具体的なDX推進に向けた支援策が求められます。



(回答企業132件)

※前の設問の「5.DXという言葉を知っていますか？」で④以外の回答をした企業のみ

[7.導入済みのDX]

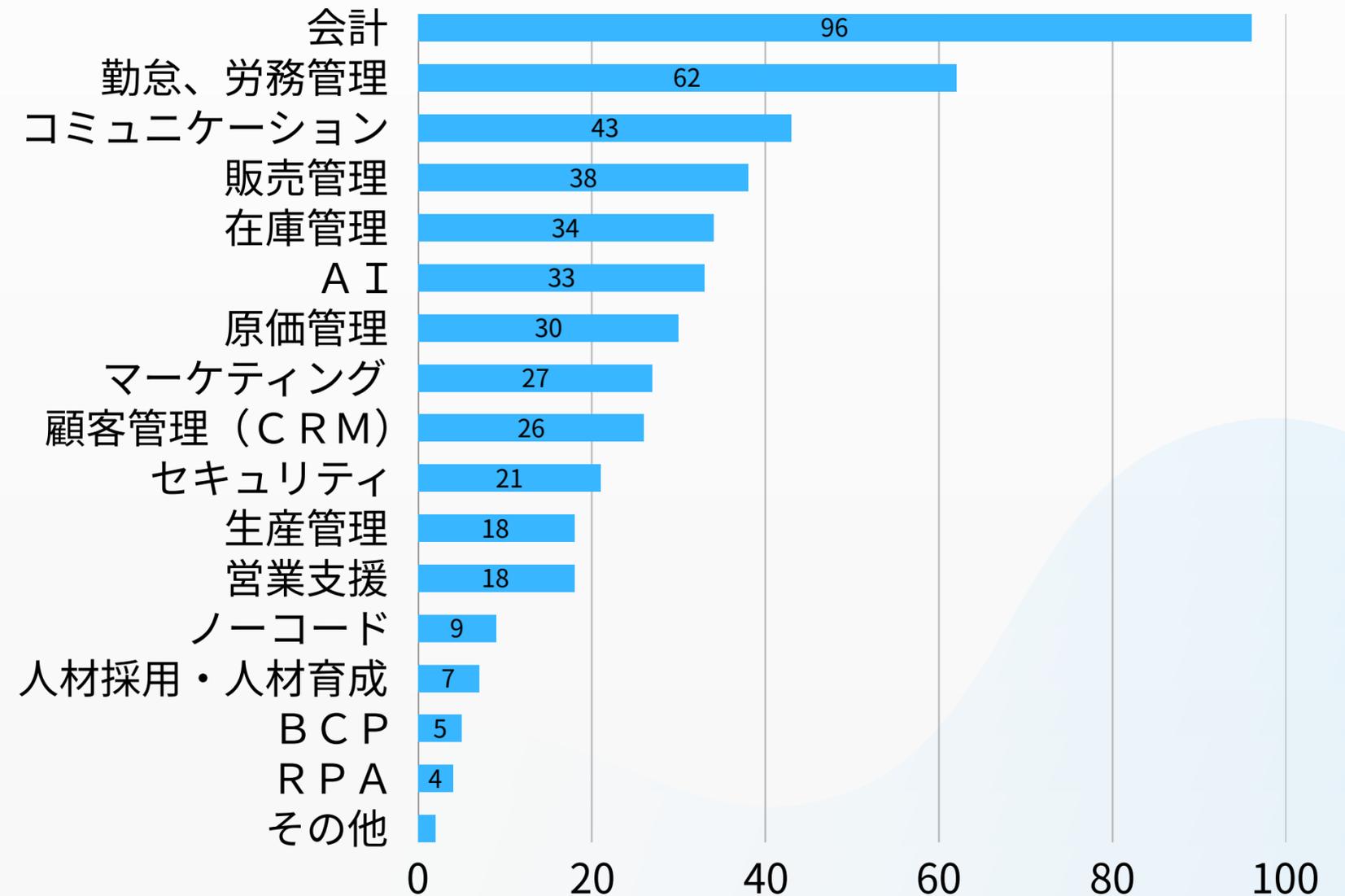
既に導入しているDX（デジタル化、ITツール等）
について教えてください

基幹業務のデジタル化が進行

会計（96件）と勤怠・労務管理（62件）が最も多く導入され、基幹業務のデジタル化が進んでいます。

一方、ノーコードやRPAなどの先進技術の導入は少数にとどまり、これからの普及が期待されます。

(回答企業132社・複数回答有)



[8.DXの課題]

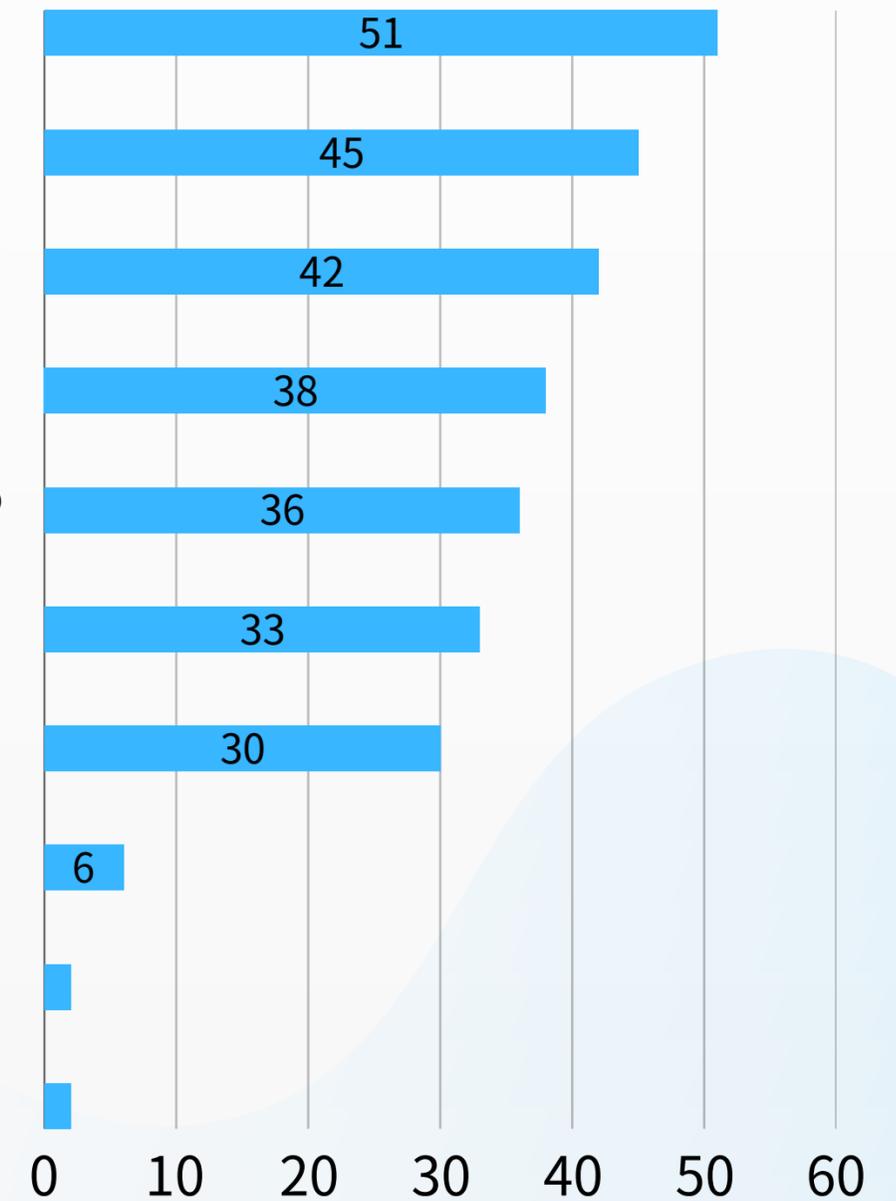
デジタル化に関する貴社の課題を教えてください

人材不足と知識不足が課題

最大の課題は「DXに詳しい人材がない」であり、人材面での課題が際立っています。また、「手書き資料が多く、デジタル化が進んでいない」、「どのようなシステムを導入すればよいか分からない」など、知識不足も大きな壁となっています。DX支援には、人材育成と情報提供が重要と考えられます。

(回答企業148社・複数回答有)

- DXに詳しい人材がない
- 手書き資料が多く、未だにデジタル化が進んでいない
- どのようなシステムを導入すれば良いのか分からない
- そもそも、何から取り組んだら良いのか分からない
- システムは高額なため導入するための費用が無い
- システム導入による費用対効果が分からない
- 特に課題は無い
- 経営層がDXを導入しようとしていない
- IOTの導入方法が分からない
- その他



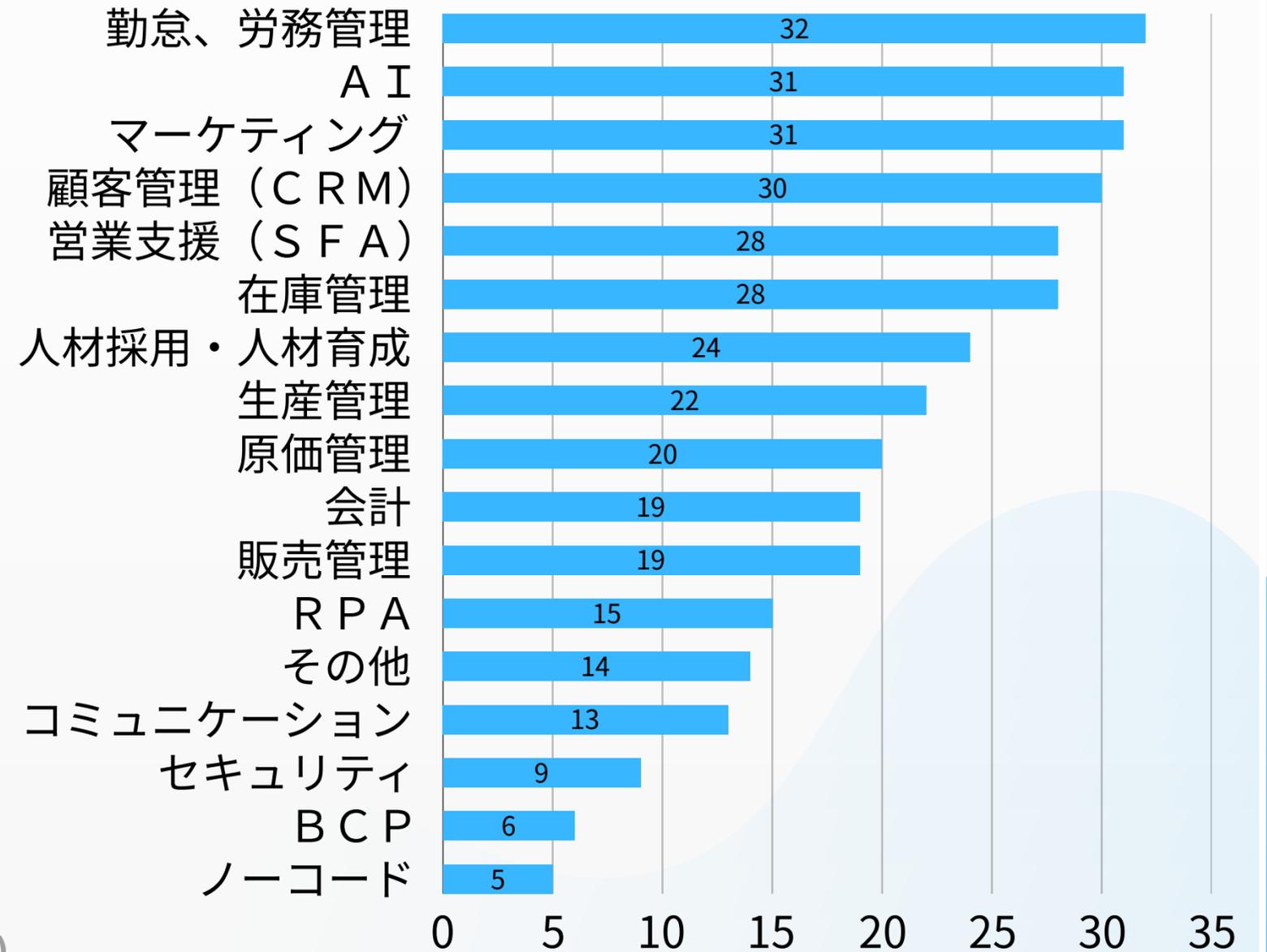
[9.導入検討中のDX]

今後導入したいと考えるDX（デジタル化、ITツール等）はどのようなものですか？

AIとマーケティングに高い関心

今後導入したいDXツールとして最も関心が高いのは勤怠・労務管理、AIとマーケティングで、次いで顧客管理、営業支援、在庫管理が続きます。既に多くの企業が導入している会計に比べ、顧客接点の強化や業務効率化へ関心がシフトしており、基礎的なデジタル化から次のステージへの移行が見られます。

(回答企業139社・複数回答有)



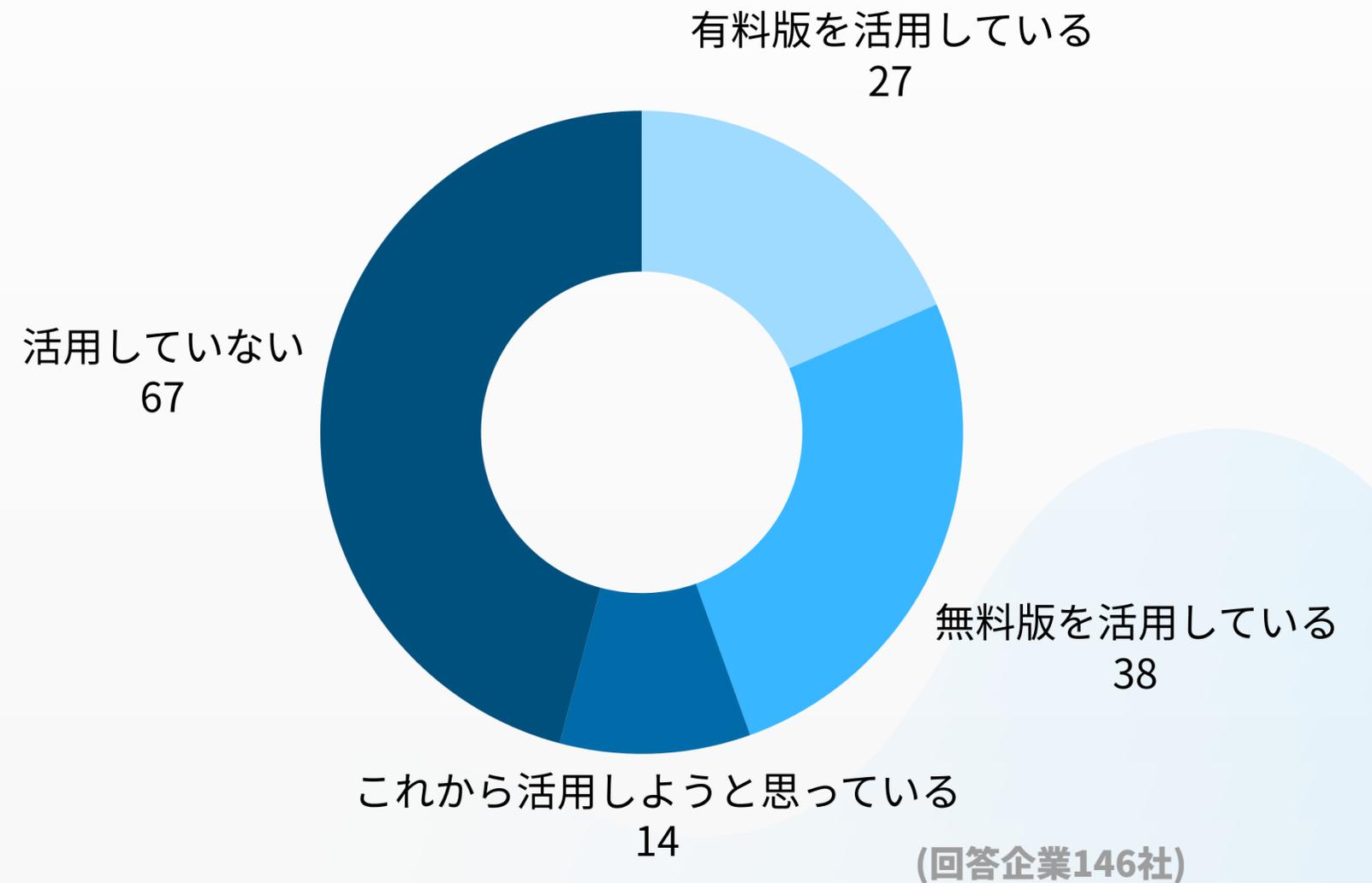
[10.生成AIの活用]

貴社では生成AIを活用していますか？

生成AIの活用は始まったばかり

生成AIを活用していない企業が過半数を占めていますが、無料版を活用している企業が38社、有料版を活用している企業が27社と活用は進んでいます。

「これから活用しようと思っている」企業も14社存在し、今後の普及に期待が持てます。



[11.使用している生成AIツール]

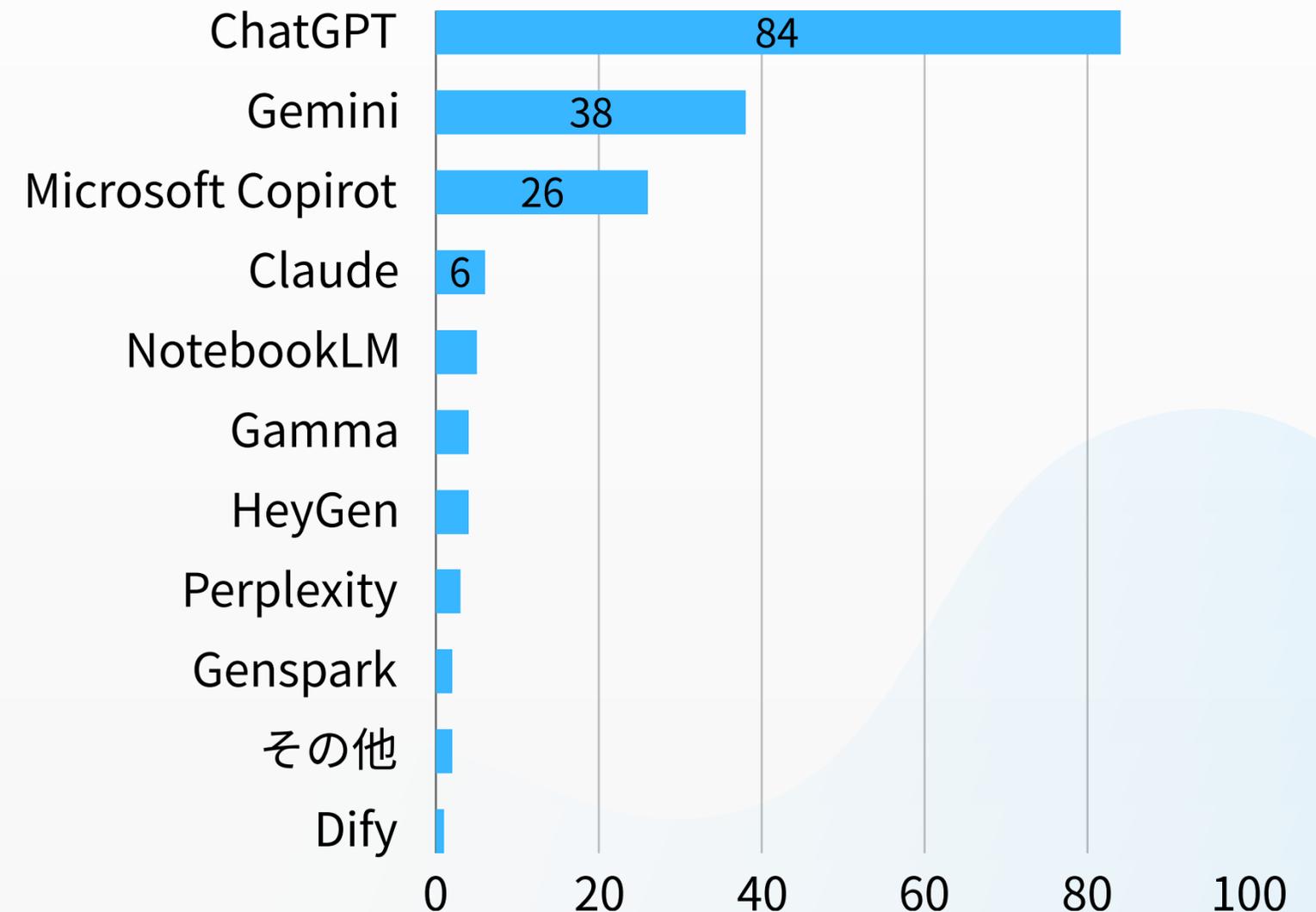
貴社では、どのような生成AIツールを利用
していますか？

ChatGPTが生成AIの主流

ChatGPTの利用が圧倒的に多く、このツールの利用が主流であることがわかります。その他のツールの利用は少数にとどまり、特定のプラットフォームへの集中が見られます。

他のツールの機能や利点を活用した多様な導入事例の提供を増やし、選択肢を広げることも重要と考えられます。

(回答企業97社・複数回答有)

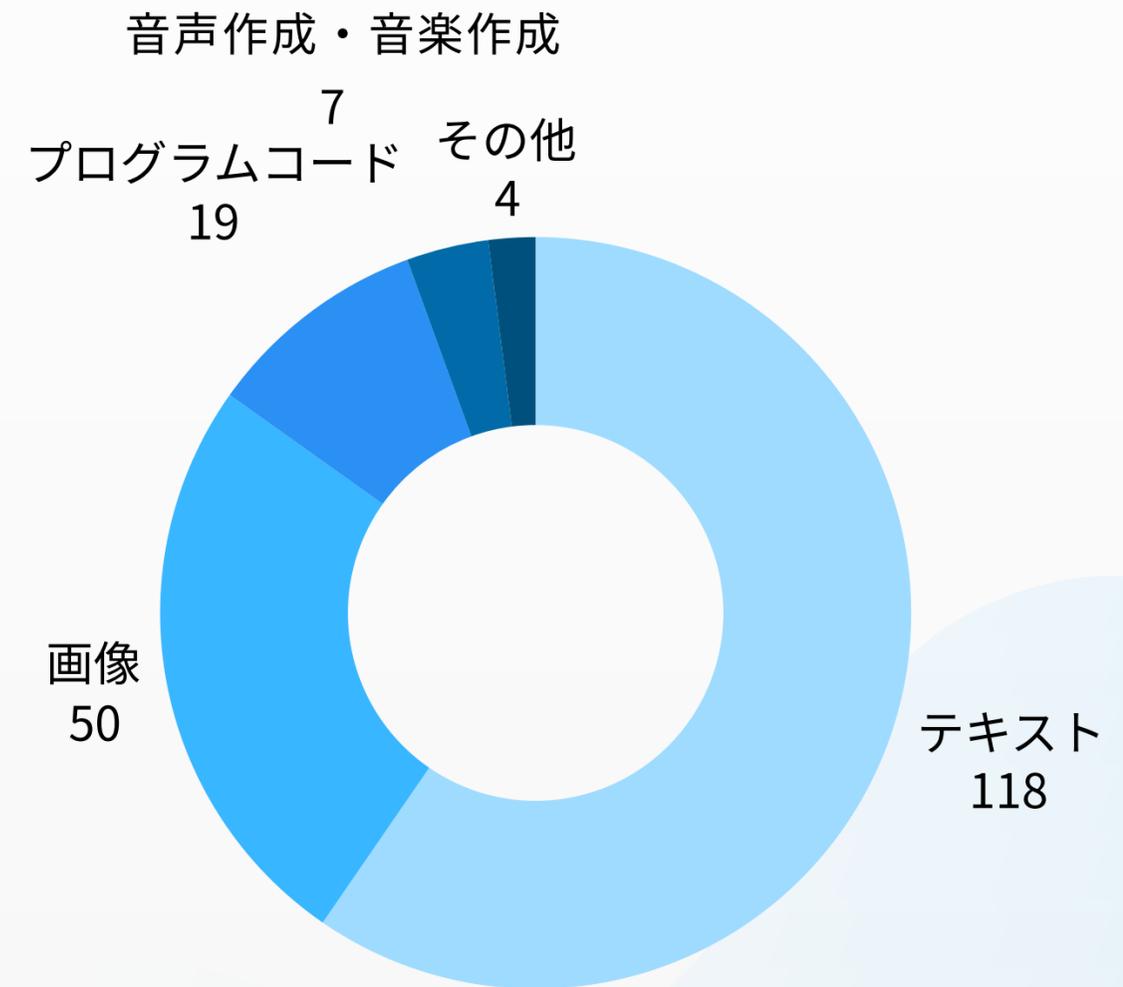


[12.生成AIの分野]

貴社では生成AIをどの分野で活用していますか？
または活用したいと考えていますか？

テキスト分野での生成AI活用が主流

生成AIの活用分野として、「テキスト（文書・報告書等の作成、対話・Q&A）」が最も多く、次に「画像（イラスト作成、写真加工等）」が続きます。テキスト分野で業務効率化やコミュニケーション改善に活用している一方、「プログラムコード」や「音声作成・音楽作成」への活用はまだ限定的で、多方面の分野での応用が今後の課題です。



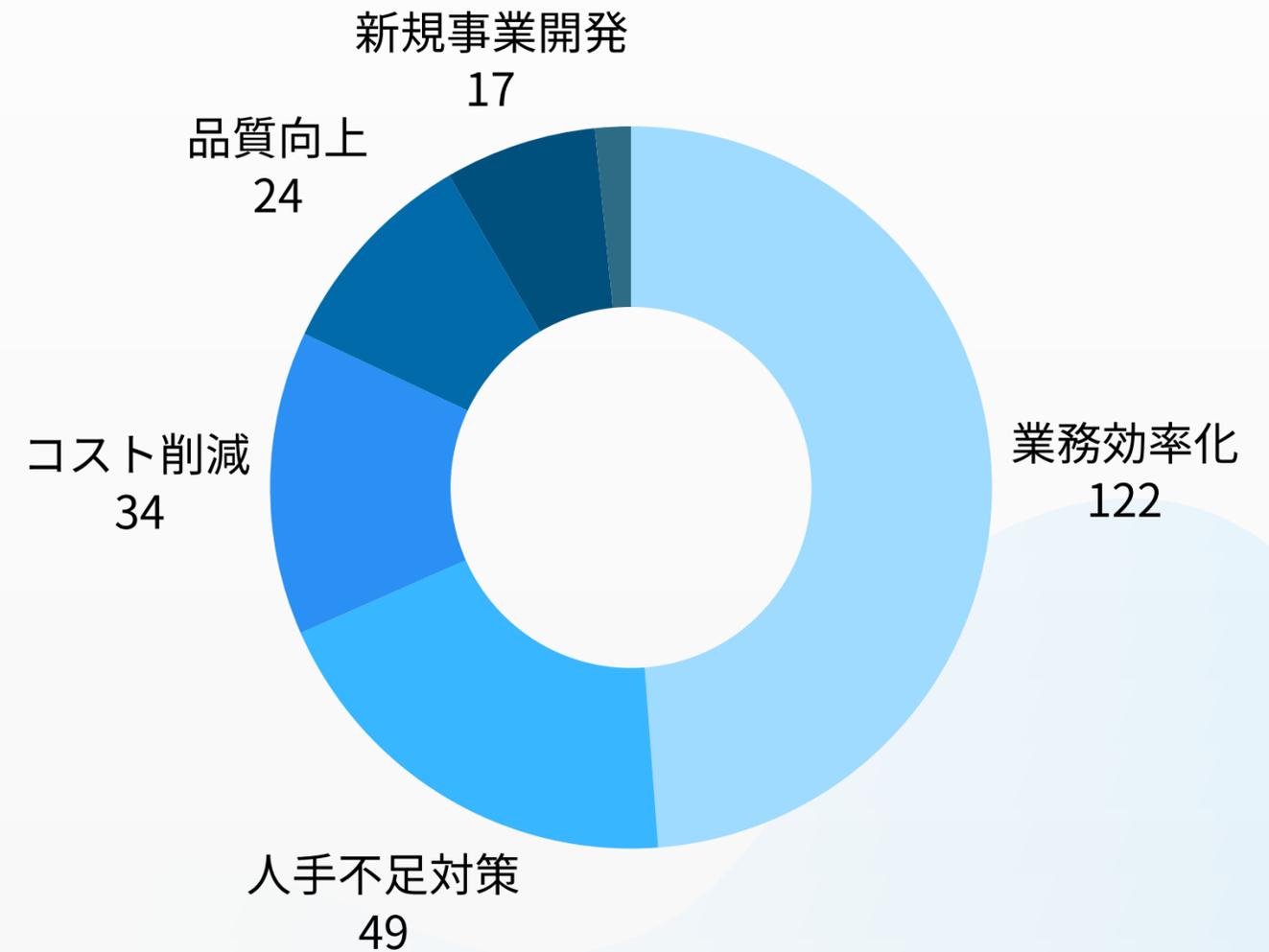
(回答企業129社・複数回答有)

[13.生成AIへの期待]

生成AIを活用することで
期待する効果やメリットは何ですか

最大の期待は業務効率化

生成AIの最大の期待効果は「業務効率化」で、多数の企業が効率性向上を重視しています。次いで「人手不足対策」や「コスト削減」が続き、経営課題の解決手段としての期待が高いことが分かります。「品質向上」や「新規事業開発」は比較的少数ですが、将来的な競争力強化の観点からも生成AIへの期待が見られます。



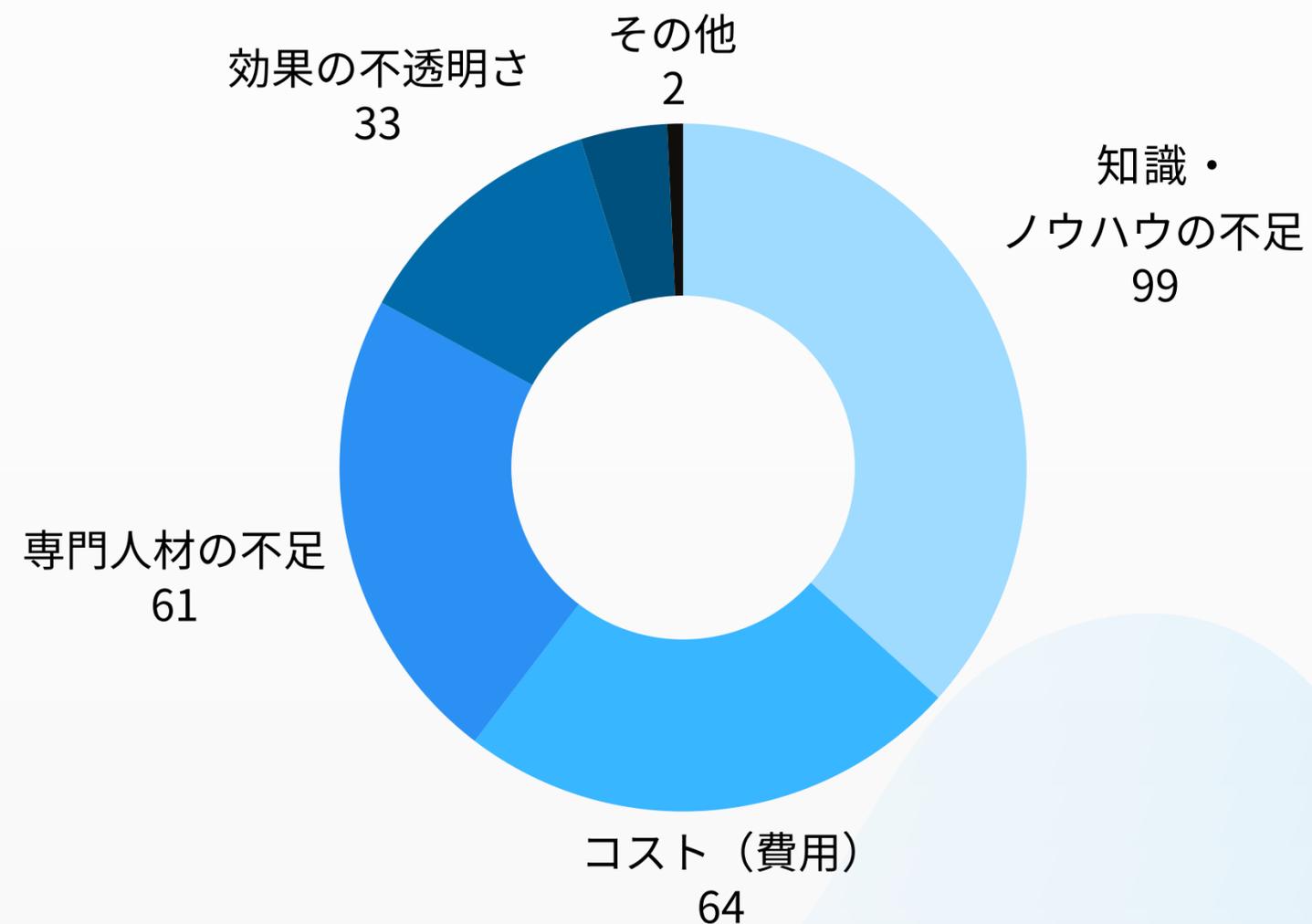
(回答企業136社・複数回答有)

[14.生成AI導入の課題]

貴社が生成AIを導入するにあたって
感じている課題や障壁は何がありますか？

知識・ノウハウ不足が最大の壁

生成AI導入における最大の課題は「知識・ノウハウの不足」で99社が挙げており、導入ハードルの高さを示しています。次いで「コスト」と「専門人材の不足」で、知識面・人材面・コスト面の三つが主要な障壁となっています。「効果の不透明さ」については33社が懸念しており、情報提供や成功事例の共有が重要です。



(回答企業140社・複数回答有)

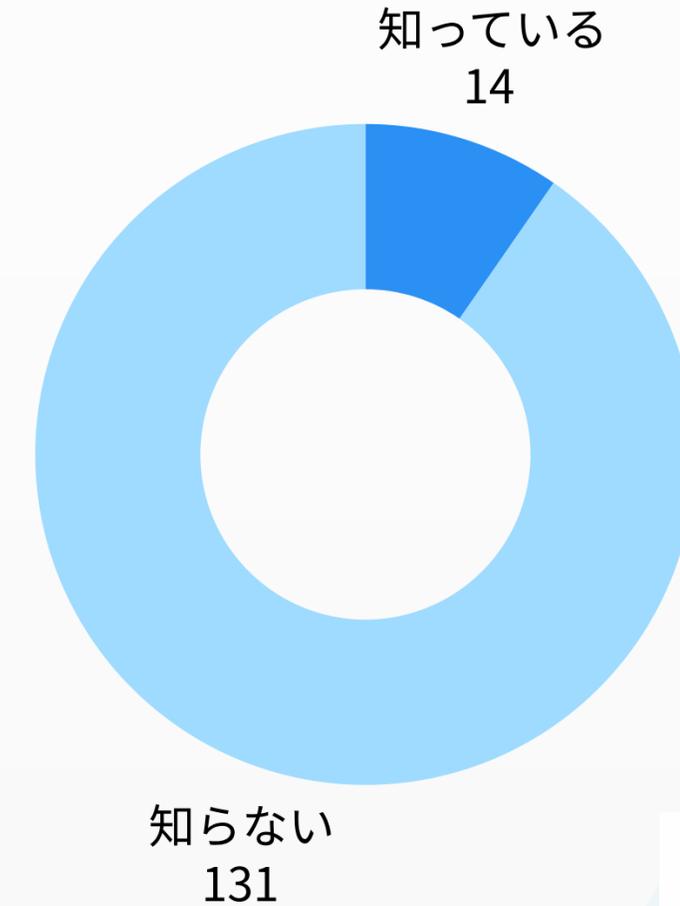
[15 . I T 戦略ナビwithとは]

**IT戦略ナビwith（中小企業基盤整備機構）を
知っていますか？**

IT戦略ナビwithの認知度は低い

「IT戦略ナビwith（中小企業基盤整備機構）」を知っている企業は14社にとどまり、131社の9割が知らないと回答しています。

今後、企業がIT戦略を効果的に進めるためには、このような支援サービスを活用し、知識を増やすことが重要です。デジタル化が進む現代において、適切な情報を得ることが競争力強化の鍵となります。



IT戦略ナビwith→
(中小企業基盤整備機構)



(回答企業145社)

[16 .必要な支援]

貴社がDXを進めるために必要な支援について
お答えください

事例紹介がDX推進の鍵

DXを進めるために最も求められる支援は「生産性向上等についての事例紹介」になります。続いて「補助金の拡充」と「セミナーの実施」が続きます。これらの支援で、企業が具体的な成功事例を学び、経済的支援を得ることでDXを効果的に推進することが出来ます。

デジタル化、生成AI、DX等による
生産性向上等についての事例紹介

デジタル化、生成AI、DX等に関する補助金の拡充

デジタル化、生成AI、DX等に関する
セミナーの実施（テーマ別）

デジタル化、生成AI、DX等の相談窓口の設置

デジタル化、生成AI、DX等に関する
個別コンサルティング（自社の課題を抽出、対策等）

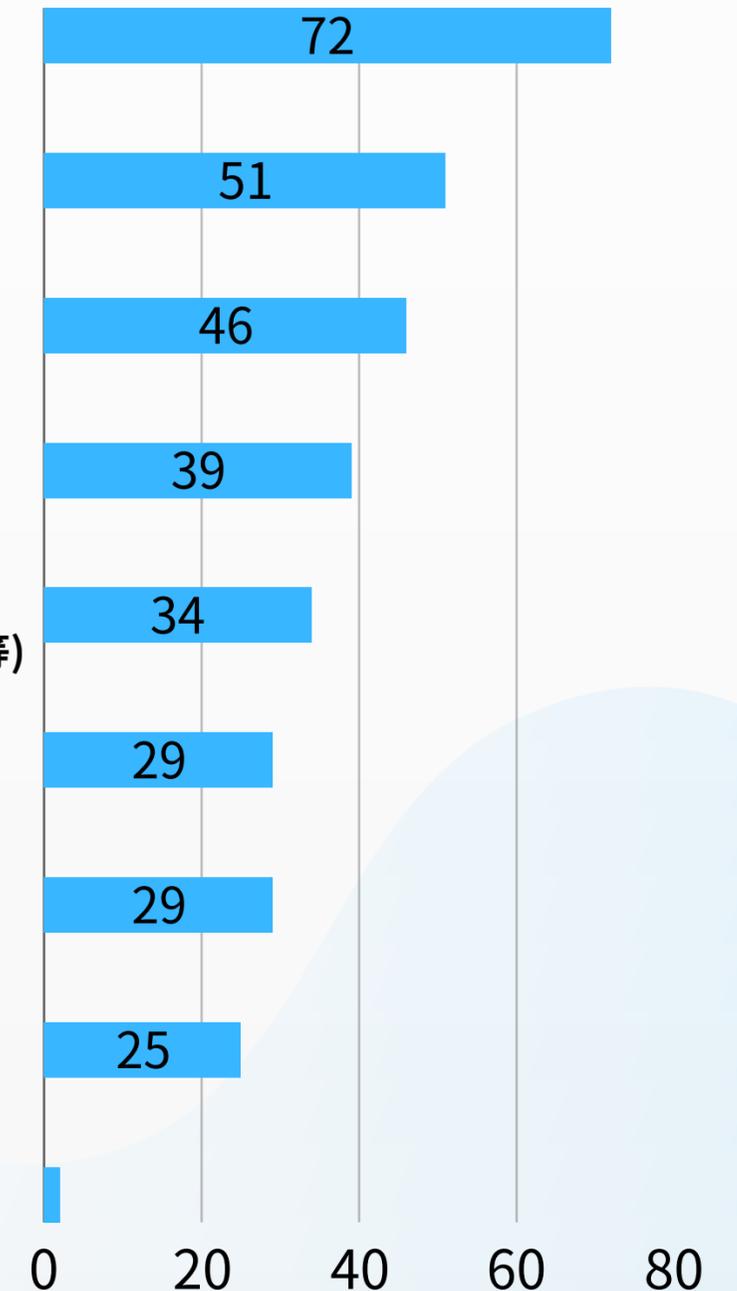
デジタル化、生成AI、DX等の
人材育成サポート

デジタル化、生成AI、DX等の専門家派遣

類似課題を持つ同業者や異業種との
情報交換の場の提供

その他

(回答企業141社・複数回答有)



[クロス集計 目次]

01

DX推進段階に応じた
ITツールの導入状況

02

業種別に見る
DX化への課題

03

規模別に見るデジタル化
推進の状況と課題

04

生成AIの期待からみる
導入への障壁

05

DX化の成熟度と生成AI
活用度の相互関係

06

業種別に見る必要支援

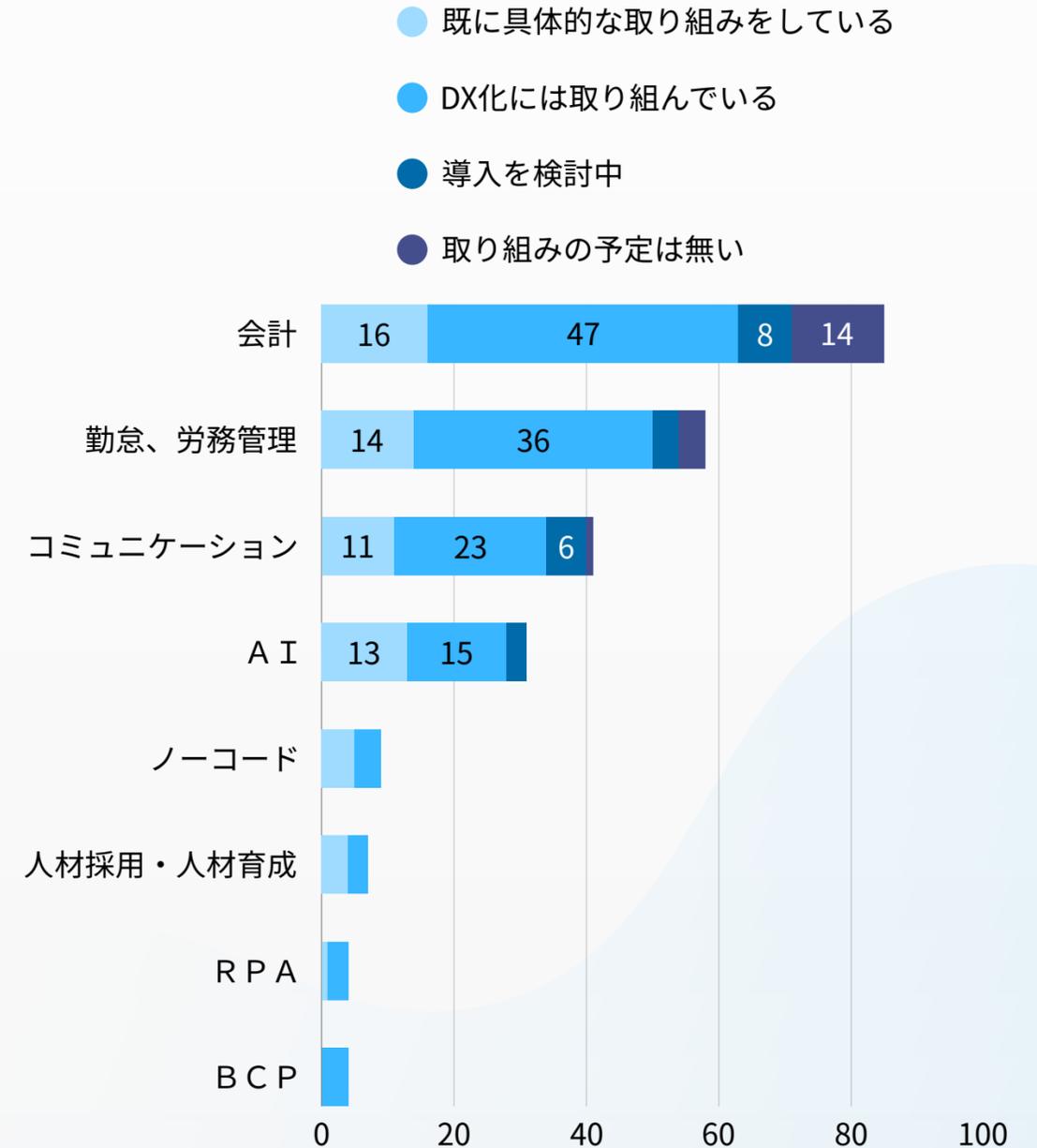
※本資料では全クロス集計結果から重要な項目のみを抜粋して掲載しています。

..... [1. クロス集計 DX推進段階に応じたITツールの導入状況]

7. 導入済みのDX × 6. DXの取り組み状況

●**基幹業務のDX化が先行**：**会計**、**勤怠・労務管理**、**コミュニケーション**は多く導入されています。「DX化には取り組んでいる」と答えた企業にも同様の動きが見られ、DXの初期段階では、基幹業務のDX化が優先されることを示しています。

●**新技術への関心**：**AI**、**ノーコード**、**RPA**は導入済みの企業もあり、特にAIは「導入を検討中」でも数企業あり、次世代技術への関心が高いことが伺えます。全体としてはまだ途上ですが、「DX化には取り組んでいる」企業での導入も見られ、これからの普及が期待されます。



[2 . クロス集計 業種別に見るDX化への課題①]

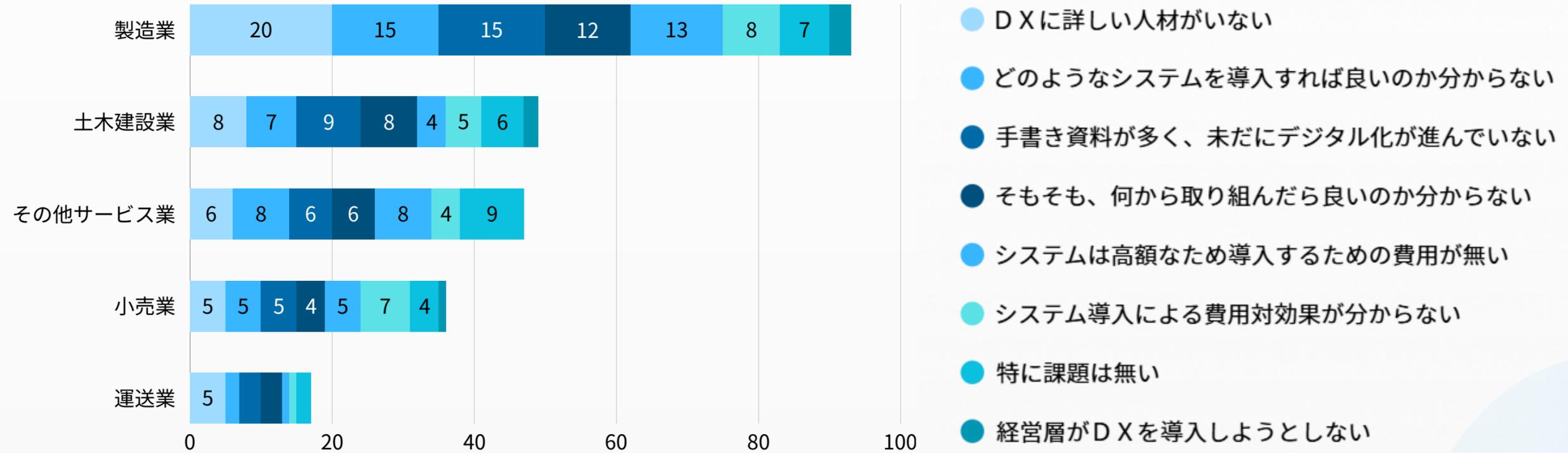
3.業種 × 8.DX化への課題



全業種で「DXに詳しい人材がない」という人材不足の課題が共通して見られる一方、業種によってDX推進における課題は異なり、業種特性に応じた支援策が必要であることがわかります。(次のページ参照)

[2 . クロス集計 業種別に見るDX化への課題②]

3.業種 × 8.DX化への課題



製造業・運送業: DXに詳しい人材がない

土木建設業の課題: 手書き資料が多い

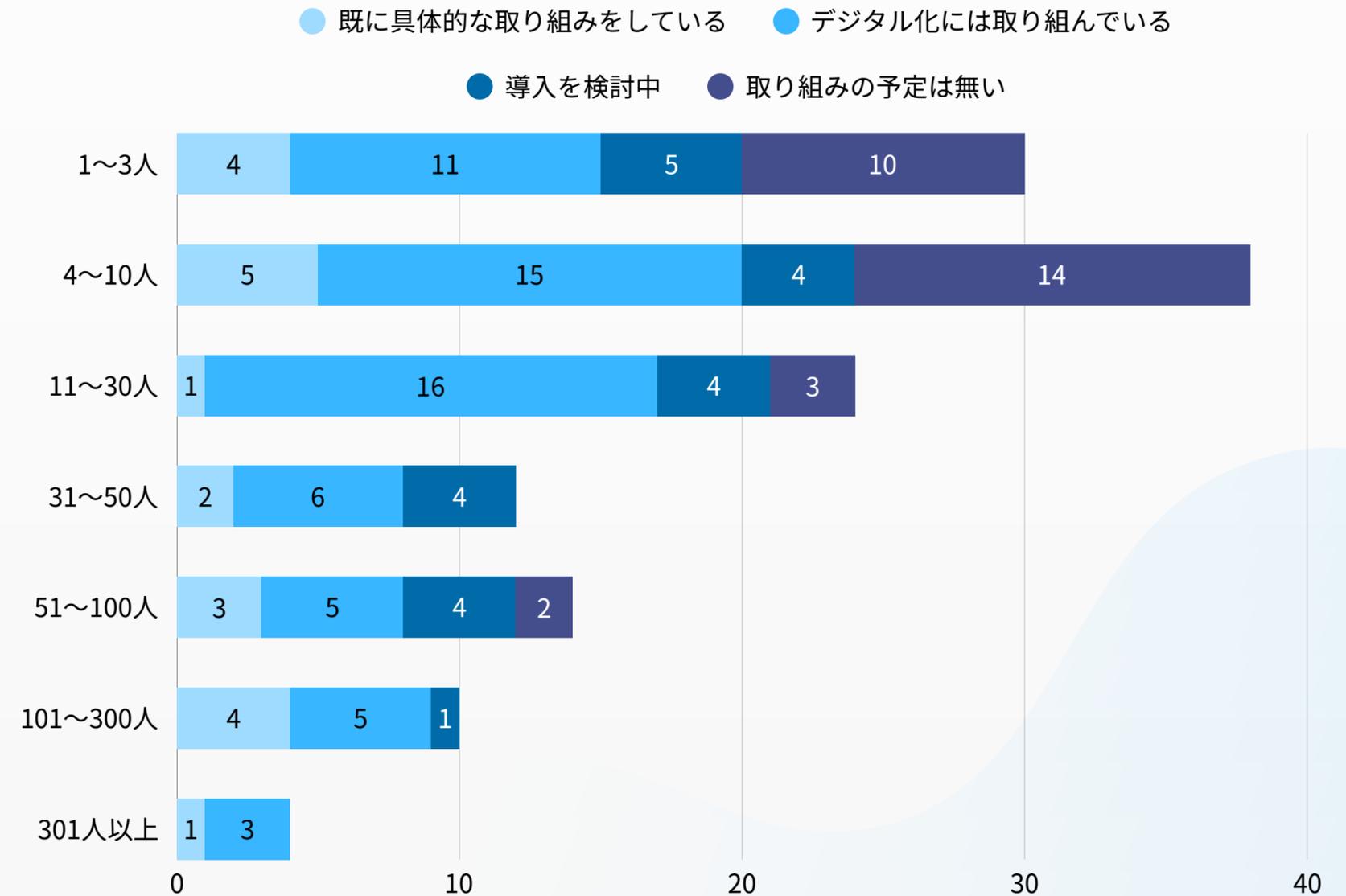
サービス業の課題: 課題が分散しているものの「課題はない」の回答は最も多い

小売業の課題: システム導入による費用対効果が分からない

[3 . クロス集計 規模別に見るデジタル化推進の状況と課題]

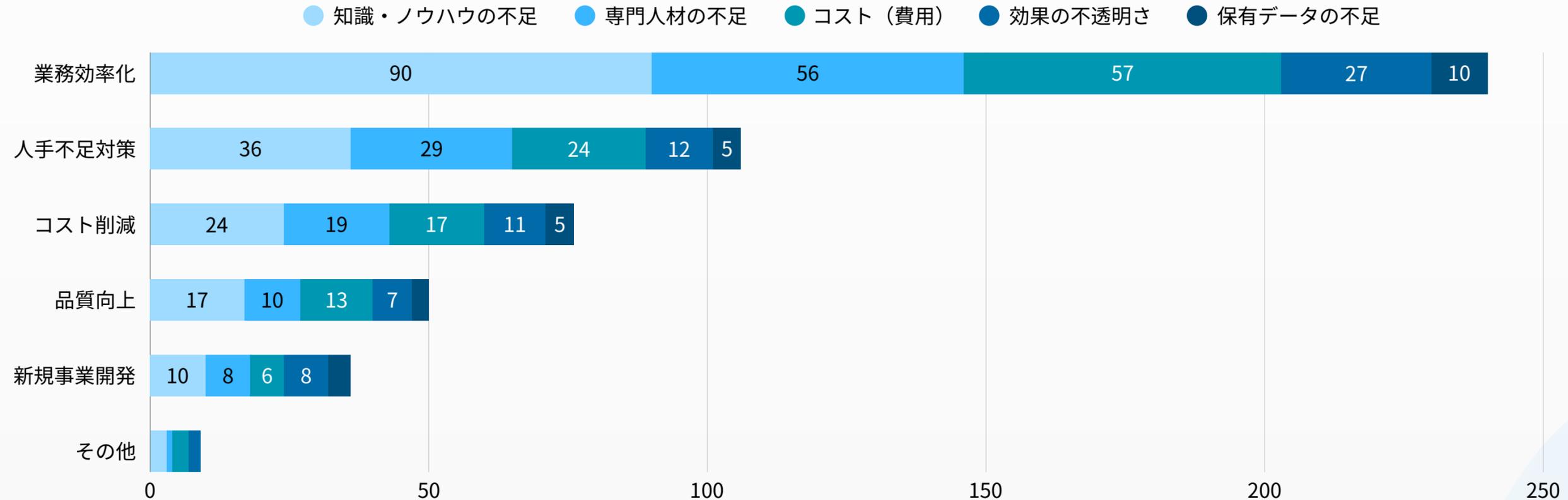
4.従業員数 × 6.DXの取り組み状況

「取り組みの予定は無い」と答えた1～10人の従業員数の企業が多く、**小規模企業はデジタル化の初期段階にあることが分かります。**中規模以上の企業では具体的な取り組みが進み、規模が大きくなるにつれてデジタル化が加速しています。今後は、小規模企業への支援を強化し、全体のデジタル化を加速させることが重要です。



[4 . クロス集計 生成AIの期待からみる導入への障壁]

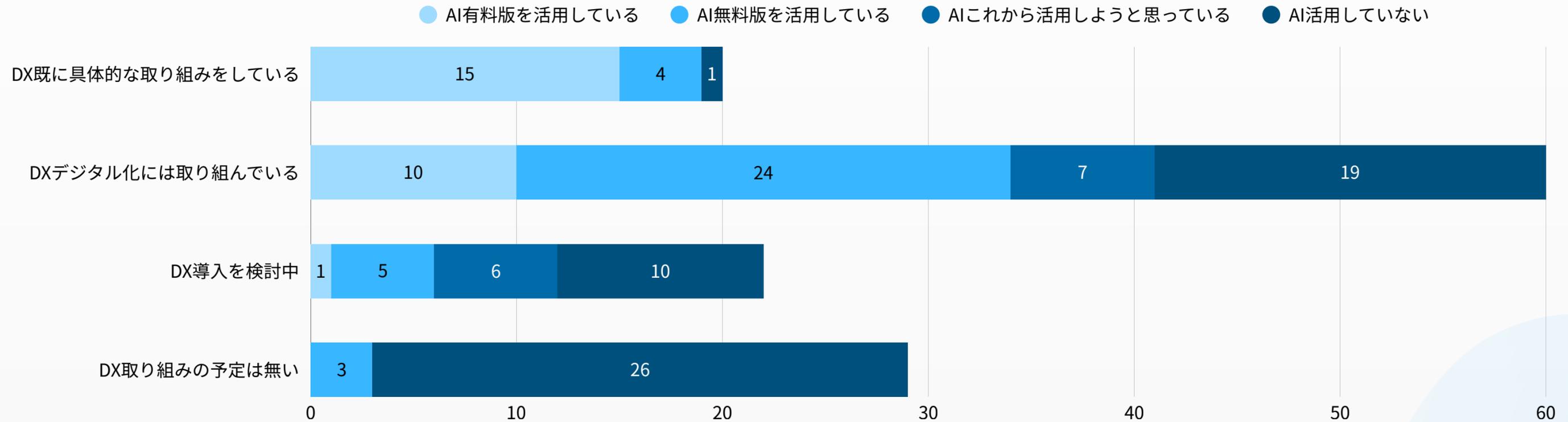
13.生成AIへの期待 × 14.生成AI導入の課題



各企業が抱えている課題は多岐にわたりますが、生成AIへの期待の種類に関わらず、導入における最大の障壁は「**知識・ノウハウの不足**」という共通課題が浮かび上がりました。生成AIに関する知識の壁を解消していくことが、各企業の生成AIの実装と活用の促進に繋がると考えられます。

[5 . クロス集計 DX化の成熟度と生成AI活用度の相互関係]

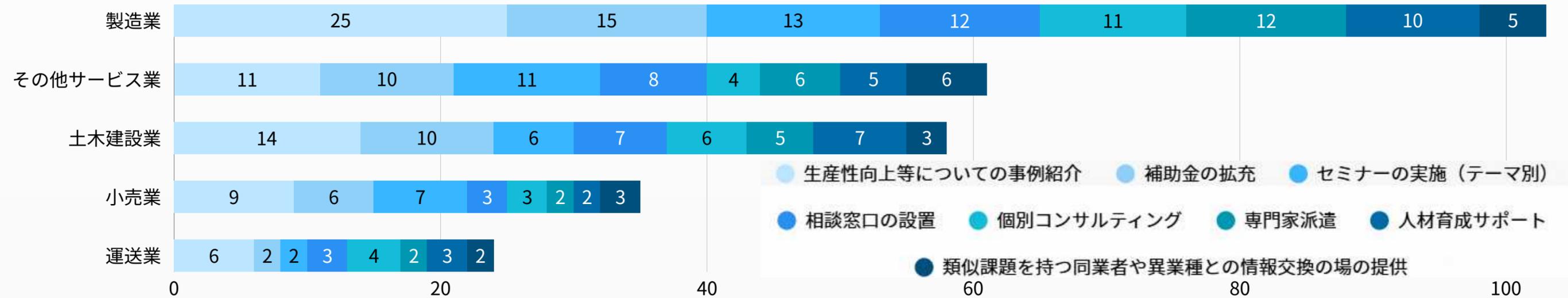
6.DX化の取り組み状況 × 10.生成AIの活用状況



DXに具体的な取り組みを行っている企業は生成AI有料版の活用率が最も高く、DX取り組み予定のない企業の大部分は活用していません。DXの成熟度とAI導入レベルには明確な比例関係が見られ、DXが進んだ企業ほどAIへの投資が進んでいます。**生成AIの本格活用がDX推進の加速剤となり得る一方で、デジタル基盤の整備が不可欠**であることが読み取れます。

[6 . クロス集計 業種別に見る必要支援]

3.企業の業種 × 16.デジタル化、生成AI、DX導入の推進のために必要な支援



デジタル化や生成AI、DX導入において、事例紹介が各業界で最も求められています。焼津市の基幹産業である製造業や小売業においても、**実際の事例を知ることが導入の大きな推進力**になります。このため、窓口やセミナーの場で、企業と成功事例をつなぐ機会を創出することが重要です。同時に**補助金制度の拡充**も進めることで、地元企業のデジタル技術活用を総合的に支援し、生産性向上と競争力強化を実現できると考えられます。

..... [現状分析]

- **情報不足の課題**：「事例紹介」を求める企業が72社と最も多く、具体的な成功事例や効果的なDXの実践方法を知ることに對するニーズが高いことがわかります。業種を問わず事例紹介が最も求められています。
- **経済的支援の重要性**：「補助金の拡充」を求める声が51社と多く、DX推進におけるコストが大きな障壁となっていることが明らかです。規模別分析からは、小規模事業者がデジタル化の初期段階にとどまっておき、資金面での支援の必要性が高いことが示されています。
- **教育・専門知識の不足**：「DXに詳しい人材がない」が全業種共通の課題として浮かび上がっています。生成AIに関しても「知識・ノウハウの不足」が導入障壁となっており、DX成熟度の高さとはAI活用度には明確な相関関係が見られません。

..... 【 支援案 】

- **事例の活用による推進加速**：具体的な成功事例の紹介を通じて、企業がDXのメリットを理解し、導入への障壁を下げることが期待されます。窓口などで業種別の特性に応じた事例を紹介することによって、より効果的な推進が可能となります。
- **経済的インセンティブの拡充**：補助金や助成金の拡充により、企業がDXに前向きに取り組むための経済的支援を提供することが重要です。特に小規模事業者向けには、基幹業務（会計、勤怠・労務管理等）のDX化に向けた初期投資支援が必要です。
- **DX教育の強化**：セミナーの開催などを通じて、企業内のデジタル人材育成を支援することが重要です。「DXに詳しい人材がない」という全業種共通の課題に対し、生成AIなど先進技術への関心を実践につなげるための知識基盤強化が必要です。DX成熟度とAI活用度の相関関係からも、知識支援が成功への近道と考えられます。

Thank you!

ご協力いただきました焼津市並びに各企業の皆様
誠にありがとうございました



[主催者] 焼津市スマートシティ推進協議会

地域事業者デジタル活用支援ワーキンググループ

(主体者：焼津商工会議所・しずおか焼津信用金庫・株式会社サンロフト)